

# ◎ 会員だより

8月号の「平成30年度表彰」の記事を拝見して、日ごろの努力とちょっとしたアイデアがヒントとなる場合があることを知りました。  
渡部 敏裕 (市町村勤務、55)

今回の全建賞受賞事業のなかで、私が住んでいる栃木県の「国際観光都市「日光市」における渋滞対策」については実施時期に通りに肌で感じた事業ということもあり、内容を知ることができて、理解が深まりました。自分の市では、何か活かさないか考えながらこれからも拝読させていただきます。

匿名希望 (市町村勤務、33)

8月号は様々な全建賞受賞記事が紹介されており、市役所職員ではこのような大規模工事に携わることはほとんどないので、大変参考にさせていただいております。

島田 恭 (市町村勤務、54)

東北の復興支援に携わった者として、東日本大震災に係る復旧・復興事業特別枠の全建賞受賞は、当時からの進捗が感じられ、感慨深いものがありました。

匿名希望 (市町村勤務、44)

「金沢の自転車施策における10年のあゆみ」が衝撃的で参考となりました。当自治体では、このような例はなく、自転車は、自転車通行可の歩道を走るか、車道の路肩付近を走行しています。この場合、自転車と歩行者、あるいは自転車と自動車危険な状態にさらされます。金沢の取り組みは、歩行者、自転車、自動車の3者が完全に分離されており、交通事故防止に大変役立つ方法だと思えます。

匿名希望

7月号の記事をよく読んでおけば、技術士の試験で、回答が書けたと思います。あと1ヵ月早ければと悔やんでいます。

匿名希望

「『三方よし!』の新たな広報活動」の貫通石に関する広報活動について、私も以前に間接的に、トンネルの貫通に携わることがありましたが、ここまで多くの人に発信する取り組みはなされなかったもので、こういうやり方もあるのかと感じました。土木職員はアピールが下手と言われていたため、若手やこれから目指す者への士気向上などのためにも、積極さが大切だと感じました。

匿名希望 (都道府県勤務、35)

7月号の「諸外国のインフラ情報」で木下教授が寄稿されている「世界銀行の調達方式」が大変興味深いと感じました。世銀ではコンサル業務で技術点の重みづけは工事より大きく設定されていて、高度なものになると100%技術評価のみで受注するという方式で大変驚きました。当自治体においても今年度からコンサル業務の総合評価方式が導入されましたが、やはり価格点は大きく影響します。VFM最大になるように、特に高度な業務においては、世銀の例を参考に世界標準の調達方式を目指すべきだと思います。

匿名希望 (都道府県勤務、47)

毎月、楽しみにしております。「上徳不徳」の「財政をめぐる7つのウソ」は、大変勉強になりました。知らないことというのは罪な事だと思いました。

田中 秀典 (市町村勤務、36)

現場も私たちの職場も働き方改革が進められ、労働時間短縮に努めておりますが、なかなか業務量そのものが減らないため、苦慮しております。画期的な他事例を紹介していただけると幸甚です。

匿名希望 (都道府県勤務、46)

大石先生の著書を拝読いたしました。物事を俯瞰的に、そして数値化し読み解く先生のお考えに胸打たれました。また土木分野のみならず、財政に関するコラムは大変勉強になりました。

中川 貴斐 (市町村勤務、27)

公共土木施設の維持管理の担当になりましたが、管理瑕疵は実際に経験したことなく、曖昧に解釈していました。7月号「巻頭言」の「維持管理の法的・側面」を拝読し、国家賠償法で定められていること、様々な場合における責任の所在等に関してとても参考になりました。

匿名希望 (都道府県勤務、22)

「事例から学ぶ現場力の向上」は若手技術者にとって良い勉強になると思います。これからも事例を増やし、失敗が少ない、気持ちよく終われる現場が増えるといいと思います。

匿名希望

建築に関する記事は写真を多めにしていただけるとよいと思います。

匿名希望

建築関係の記事をもう少し扱っていただけると嬉しいですよ。

匿名希望

最近、職場で「建設系公務員賠償責任保険」の話題がよくあがります。我々公務員も管理瑕疵などで個人が訴えられる世知辛い時代です。リスクマネジメントはしっかりしておきたいと思えます。

匿名希望 (都道府県勤務、46)

平成30年度全建功労賞に高校時代の同級生や熊本地震でお世話になった方々の名前を見つけてとてもうれしく思いました。私も負けないように頑張りたいと思えます。

匿名希望 (市町村勤務、28)

## ◎ 「会員だより」の投稿を募集

月刊「建設」に関する意見・感想・要望、その他の全建活動(建設技術講習会、伝承プロジェクト、公務員賠償責任保険等)に関する意見・感想・要望、業務上の悩み等をお寄せください。お寄せいただいた意見等は、今後の編集等の参考にさせていただきます。月刊「建設」の「会員だより」に掲載させていただいた場合は、クオカードを進呈いたします。詳細は全建HP上のバナーをクリックするか、下記のQRコードを読み取ってください。たくさんのご応募をお待ちしております。



一般社団法人全日本建設技術協会 事業課 峯脇・黒崎  
TEL: 03-3585-4546 / e-mail: kensetsu@zenken.com

過去に実施した事業等が特集されることが多いですが、これから直面する少子高齢化に向けたまちづくりなど計画面の特集を組んで頂き、未来についての取り組みを全建を通して学べるとよいと思えます。

匿名希望 (市町村勤務、33)